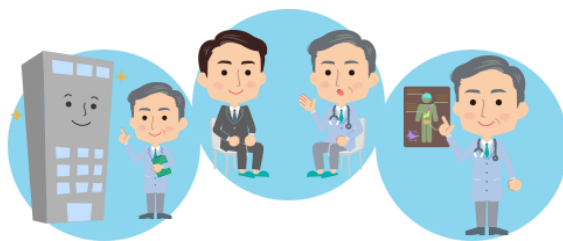


“産業医とは、



職場を改善するために医者をする人”

予防ベルト（らくようたい）、腰痛予防ベッド（寝返り促進ベッド）等多くの製品研究・開発に取り組んできた研究者です。人間工学（作業や作業環境を労働者に適合するように改善する科学）に基づいて職場を改善し、労働者の腰痛・頸肩腕障害などの予防につなげたいという思いのもとに研究開発に努力されています。治療の前にまずは職場の改善・予防。（そして、



三月二十八日午後六時から中小企業センターで、宇土（うど）博医師（現友和クリニック院長）による「産業医制度の活用のかた」と題した定例講演会が行われました。

宇土医師はドクターグリップ（パイロットボールペン）や腰痛

安全センター

[発行]

尼崎労働者安全衛生センター

[連絡先]

〒660-0802

尼崎市長洲中通 1-7-6

TEL・FAX 06-4950-6653

6月23日(土) 13時～

尼崎市中小企業センター

(尼崎市昭和通 2-6-68)

クボタ・ショックから13年

「アスベスト被害の救済

と根絶をめざす尼崎集会」

に参加しましょう！

産業医の職務は毎月の安全衛生委員会・職場安全パトロール（後者は条件付きで隔月も可）参加はもちろん、健康診断実施と事後措置、作業環境管理、作業管理、健康管理、健康の保持増進措置、衛生教育、健康障害の防止措置など多岐にわたります。

そして、労働者の健康確保のため措置が必要なばあい、事業者に対し措置の実施を勧告でき、事業者は産業医の勧告を尊重しなければなりません。つまり、大変大きな権限を持っているのです。その勧告・指導によって日新製鋼では非常に早い時期にアスベストの撤去と代替化が進められたということです。産業医は「作業場を巡視し、作業方法または衛生状態に有害なおそれがある時は、直ちに、

職場の巡視が大切

治療として新経絡鍼治療も導入）

このような思想のもと、過去日新製鋼の製造工場や現在では介護施設の産業医としての長い経験を踏まえて、私たちにアドバイスをしていただきました。



講演会の様子

てきてくれる関係を作ることが大事です。そして、少なくとも医者3割くらいは、職場を改善するためにがんばると思います。

残業させないでと

勧告する役割

最近の職場の問題では過労防止対策（過労死や過労自殺）、メンタルヘルス対策（ストレスチェック）、癌患者の治療と仕事の両立対策などが顕著です。産業医によ

労働者の健康障害を防止するための必要な措置を講じなければならぬ」（安全衛生規則15条）

つまり、産業医は職場の改善を助けるし、何もしない産業医は辞めてもらえばいいのです。今から職場を改善しますと宣言するのが産業医です。中腰で仕事をしている職場があれば、すぐに止めさせて改善案を職場の人たちと考えればいいのです。産業医の立場から言えば、現場の労働者が色々言っ

る長時間労働者への面接指導・ストレスチェック後、本人が希望するならば面接後医師の意見を聞いて必要に応じて、就業上の措置につなげるなどの職務があります。残業が多ければ、残業を止めさせる勧告をします。これを尊重するのが会社の労務管理です。勧告を無視したらその人は本当に生命を失ってしまいます。

職場の不具合を直し、環境を人に合わせていくのですから、人間工学を基礎にした産業医学は、職場を元気にします。そして、健康で、効率よく、風通しも良い、社会に貢献できる製品やサービスを生産・供給する職場を皆さんで作ってください。

産業医を私たちの

良き相談相手に

といった大変わかりやすい講演でした。わずか二〇名の参加でもあったいなさすぎます。

私たち労働組合側からみれば、このような職務を担う産業医を如何に味方につけるか、そして事業主に働きやすい職場への改善を努力させるかは重要なことです。出席した若い労働者から産業医と言うのは職場に予防接種にきてくれる人のこと、という感想がありました。また、安全衛生委員会が産業

(次頁へ)

（前頁より）

医を見かけても話したことはない、名前も憶えていないという感想も。また、私たち労働者の友達であった産業医・故山下五郎医師を今更なつかしむ声も。それぞれの労働組合で産業医を講師に呼んで、産業医とは何かを講演してもらってはどうか。宇土先生は質疑応答に答えて産業医の立場から、

「まずは親しく付き合うことである」と。

「職場を一番よく知っているのは労働者である皆さんです。職場における働きにくさも相談してみてください。産業医を信頼して親しくなれば、よき改善案のアドバイスがもらえるかもしれません」。

二月定例交流会 組合員（従業員）の声を聴く取組み

二月二二日（木）一八時より安全センター事務所にて、九名の参加者で定例交流会を開催しました。改めてですが、定例交流会では最初に安全センター、各労組の活動報告、今後の予定を共有します。その後、運営委員会で話し合っ

決めたテーマを基に各労組から発表、質疑を通して課題抽出、解決方法の検討などをおこないます。

ここ最近のテーマは「ストレスチェックに取組んで」、「事故・災害報告」、「今職場で問題にしていること」、「人事評価制度、職場の人間関係」などで、今回は「組合員（従業員）の声を聴く取組み」をテーマに交流しました。関心をお持ちの方の参加を待っています。



組合員の声を集める取組み

- ・アンケート…権利・職場実態アンケート、職場環境改善アンケート、YGUアンケート（生活実態調査）、給食アンケート、自動販売機アンケート
- ・直接声を聴く取組み…執行部が聞き取り、職場集会における諸要求のヒアリング（主に団交前）、職場委員会（月一度）、ブロック大会、春闘説明会の時に聞く、日常会話で聞く

- ・目安箱の設置
- など様々な取組みが各職場で行われています。

- ― 庁舎内食堂の再開を希望
- ― 同じ階に響くほどの怒号によるパワハラ
- ― 健康診断の内容に腹部エコー検査を追加希望
- ― 照度チェックの要望
- ― 腰痛についての研修希望
- ― お風呂の床が滑る
- ― 職場が暑い・寒い
- ― 職場に危険な箇所がある
- ― 安全靴の板に足先が当たって痛い
- ― 帽子のサイズが選べるように

などの声が集められたと報告がありました。傾向としては目安箱（意見箱）への投函は少なく、やはり直接聞く取組みからの吸上げが多いように感じられました。

声（意見）に

向き合えていますか？

言うまでもなく現場の声をただ集めることが目的ではなく、その声をどう活用してより働きやすい職場を作るかが大切です。

- ・組合執行委員会で議論して整理し、団交で諸要求として上げる。
- ・安全衛生委員会ですぐに取組める内容を確認し、改善を進める。

- 内容によっては職場責任者会議や法人全体の会議で議題として扱ってもらうよう要請する。決して放ったらかしにはしない！
- ・各種委員会での意見提起
 - ・取組みをポスター掲示、書記局ニュースなどで発信

集まった声をどのように検討しているのかを丁寧に示し、要求項目として取り上げられない内容についても、その理由をしっかりと伝えることが大切だという意見が出されました。

安全衛生活動を活性化させるためには声集めがとても大切です。安全衛生委員だけが活動をしているような状況は全く良い状態とは言えません。声をより沢山集める

ためには、声を活かした取組みをすすめる、現場から出された声が活かされたことを現場労働者へ実感してもらうこともセットで進めなければなりません。「声を上げれば何かアクションがある」と労組や安全衛生員会が信頼される存在となることも大切です。

今回のテーマは労働組合や安全衛生委員会にとって改善のきっかけとなる声集めの話でしたが、集め方やその活かし方などで案外各労組悩みが多い事もわかりました。一朝一夕で声集めが活性化するものではありませんが、コツコツと一つ一つに真摯に向き合い、あき

らめずに活動に取組んでいくことが必ず身を結ぶはずです。思った時が行動のチャンスです。着実に取組みを進めましょう。

ブレーキとアクセル

警視庁の統計によると、車の運転で、ブレーキとアクセルを踏み間違えて、二〇一一年から二〇一五年までに二二六件の死亡事故があった。

その年齢別内訳では、六五歳未満が二一・二%、八〇歳から八四歳で二三・五%となっている。道路以外での発進時やサービスエリアなどで事故が多いという。

自動制御装置を付けたクルマが拡がっているが、ブレーキをもっと明るい色の蛍光塗料で塗ってはダメなのか。

神戸新聞

日光写真

11月19日

化学変化を応用した玩具。人物などの絵が印刷された種紙を感光紙の上に重ね、ガラス板付きのカメラを模した箱に入れ、日光に数分間当てると感光する。感光紙が発色すると、水洗いし、乾かして完成させる。種紙の絵の白黒が反転しているのは、白い部分が感光すると青くなるからだ。大正時代から子どもたちに人気があり、駄菓子屋などで売られていた。昭和40年代まで雑誌の付録としても見掛けしたが、姿を消した。（井上重義）

日本玩具博物館